

事業所名 グループホームあかいわ
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成 16年 12月 24日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 介護支援専門員・2級ホームヘルパー(5年)・社会福祉主事(2年以上)
訪問介護員歴(3年以上)
B: 現職 介護型療養病棟看護師
資格・経験 介護支援専門員・看護師(8年以上)

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か (記述) 「安心」「自立意欲」「快適」「社会性」に着目したケアとすること。 ○「安心」には、入居者の方が、心穏やかに生活できる、安らぎの場所や、信頼関係づくりを目指す。 ○「自立意欲喚起」には、入居者の能力・経験を最大限に生かし、できることは自分であろうという意欲の引き出しを目的としている。 ○「快適さ」の追求は、笑顔で集う共有空間として、くつろぎのリビング・過ごし易い居室など家庭的な雰囲気を作り出す。 ○「社会性」については、自然とのふれあい地域の人々や社会とのかかわりを大切にする、それらを入居者一人ひとりに合わせて提供できるホームを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違え等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮ら着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か (記述) ○一人ひとりのペースに合わせて、ゆったりとした時間の中で、「その人らしい暮らし」が出来るような居場所作りと、家庭的な雰囲気作りに努めている。 ○職員自身が精神的に安定した、やさしい雰囲気を保つように心がけてケアに当たり、信頼関係を深め安心感を与えている。 ○入居者の心身の状態変化を、素早く察知し、早めに対応している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など
(記述)
○「安心」「快適」「自立」「社会参加」を理念に掲げ、入居者の処遇の充実を図り、ひいてはターミナルケアも視野にいれ、安らぎと尊厳のあるホーム生活を実現している。
○ホームは田園地帯に位置するがバス停も近く交通の便が良い。山陽インターチェンジより3kmで、商業地に近く、自然環境だけでなく、社会的環境も充実し、買物や一般社会活動がしやすいと感じた。
○研修と経験に裏打ちされたプロ意識をもって常になごやかに、入居者に目を配り、お互い工夫しあいながらケアしている。「ケアは人なり」が特に実感できる暖かいホームで、入居者の表情が落ち着いて和やかである。
○建物は明るく、菜園ではハーブや苺・野菜などの栽培が楽しめ、散歩のできる庭園には、ベンチが設置してあり、くつろいだ生活が享受できる。
○内科・外科・その他の診療科目を有する協力病院の理事長が、ホームの母体である社会福祉法人の理事長でもあり、福祉・医療の複合的ネットワークの中にあり、通常時にも緊急時にも十分なサポートが受けられる体制が整っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
○問題点、指摘すべき点は特にありませんが、地域活動への積極的参加を提案したいと思います。小中学校をはじめ、地元の住民はホームを度々訪ね、入居者も買物等でよく外出しているが、より地域に密着した高齢者福祉施設にホームとして寄与する為、老人会への参加や、町内自治会への加入などを期待したいと思います。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	病者の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ○「長く人生を歩んでこられた今の一瞬に、その方の生涯のすべてがある」と一人ひとりの生活史、好み、習慣、長所を職員が把握し、本人が個性や持ち味を生かし活躍できる場面(食卓や玄関に花を生けたり、パイオリンやオルガンを演奏したり、料理に腕を振るったり菜園で野菜を作ったりする)の工夫がなされている。 ○居室へ入室する際は、ノックを欠かさず、許可を得てから入室している。また、個人に関する書類は、夜間に鍵をかけるなど情報の管理にも取り組んでいる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か (記述) ○職員教育を徹底し、内部でお互いに切磋琢磨していることに加え、外部的にも関係法人内の施設や医療機関内で、研修・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。四季ごとの行事を催し心身の感覚の衰えを防止し、すなわち「クオリティ・オブ・ライフ」の理念の実現に努力している。 ○入居者の細かな言動を見逃さず、家族に直に伝え、家族の意見を聞き問題発生の予防に努めている。 ○見守りを重視したケアにより、医療機関のバックアップ体制がより確実になるよう、全体会議の中でも取り上げ、記録して職員が情報を共有している。		